日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

92.3.17 No. 3557

中労委和解策動粉砕！清算事業団闘争の完全勝利へ!!

3・15全国国鉄労働者集会勝ちとる

三月一五日、墨田区・スミダリバーサイドホールにおいて開催された「三・一五労働者総決起集会」は、北海道・九州・本州各地から参加した多くの国労闘争団、全逓、教組、自治労、動労千葉などから二〇名が結集し、緊迫した情勢の中にある清算事業団闘争の完全勝利へ向けた集会となった。

集会は一三時三〇分から開始され、神奈川交流センターの庄山さん、動労水戸の曲山さんの司会のもと進められた。

主催者を代表して動労総連合水野委員長は、JR体制の崩壊が進んでいることを確認したうえで、「事業団闘争の山場を春闘とからめて闘いぬこう。資本と闘わない連合に賃上げや時短がかちとれるはずがない」と指摘し、さらにPKO法案粉砕へ三月からの連続闘争に決起することを訴えた。

続いて、原茂氏（元炭労委員長元中労委委員）の講演が行われ、労働委員会の仕組み、争議の心構え、組織拡大、中労委闘争についてなどが語られ、現在われわれが直面する問題への大きな進路を指し示すものでした。

《要旨別掲》

原氏の講演を受けて次に、中野委員長から清算事業団闘争の直面する問題点などが出され、三・二五ストを実力で勝ちとることが訴えられた。

《要旨別掲》

3・25スト決起！

連合が結成三年目でピンチを迎えている。

これは日本の労働者が、まともな労働組合の台頭を求めていることに他ならない。

その立場から清算事業団闘争―反PKO―沖縄闘争を積み重ねていかなければならない。

当面する三・二五ストを新たな出発点として、四月～六月を闘い抜く。

清算事業団闘争の闘いほど、情勢を動かし反連合運動の中心になる闘いはない。

動労千葉も国労とともに、全力をあげて闘い抜く。

非妥協・非和解の長期実力闘争で突き進む!!

国労秋田闘争団の小玉氏より基調報告が行われ、分割・民営化と一〇四七名解雇に至る経過、清算事業団闘争の現段階と直面する闘いの方向性が提起され、闘争団切り捨てのための「和解」を打ち砕き、『中労委命令戦取』へ非妥協・非和解の長期実力闘争で突き進むことが全体で確認された。

カンパアッピールの後、北海道は北見、九州の佐賀・佐世保の闘争団と国労東京の仲間、動労千葉争議団の高石・白井両氏と田中書記長から闘う決意が語られ、全逓四・二八被免職者、交流センター教育労働者部会、スタンダード・バキューム石油自主労組の各代表から清算事業団闘争と共に闘う連帯のあいさつが行われた。

最後に、東京交流センター代表の三角氏よりまとめが行われ、水野総連合委員長の音頭で団結ガンバロー三唱を行い、大成功のうちに集会を終了した。

清算事業団闘争勝利春闘勝利、「JR体制」打倒へ三・二五ストライキをかちとろう！

原茂氏（元炭労委員長 元中労委委員）

JR闘争で中労委に明快な態度・決断を迫れ!!

中労委闘争についてですが、原則は、命令が出されなければ解決できないというのが原点だ。

これが労働運動としての第一の課題である。

和解だけでうまくやろうというのは大きな間違いである。

JRは今、「中労委は命令を出す度胸がない」とたかをくくっている。

そして、中労委の悩みというのは、地労委があまりにも良い命令を出してしまったのでこまっているのだ。

中労委をその気にさせるためには何をすべきか。

JR闘争ぬきにして、中労委に決断し覚悟しろというのは無理である。

みなさんは、徹底的に労働委員会の責任追及と明快な態度を要求していかなければならないと思うのであります。

（この要旨は、中労委に関する部分だけを掲載したものです。日刊動労千葉編集委員会）